栃幼時報

題字／栃木県知事　福田富一 氏

第141号

令和2年6月20日

一般社団法人 栃木県幼稚園連合会
〒320-0032 宇都宮市昭和1-3-10 栃木県庁舎西別館
☎028(622)2821 FAX 028(622)2816
●編集人／堀　昌道　●発行人／石嶋　勇
■栃幼連ホームページ　http://www.youchien.or.jp

理事長挨拶

理事長就任にあたって

栃幼連理事長　石嶋　勇

令和二年度の（一社）栃木県幼稚園連合会五月通常総会は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて誠に残念でありますが、会員の皆様の同意の下、書類決議とさせていただくことになりました。

また本年は役員改選の年度であります。私は過日「地区会長及び常任理事」による栃幼連正副理事長「候補者」推薦委員会にて推挙され書類決議により承認賜りました。大変微力な私でありますが、五期目のスタートを切らせていただきました。皆様の温かいご支援ご協力をお願い申し上げます。

さて令和二年度が新型コロナウイルス感染症の世界的パンデミックとなって人類に襲い掛かっております。日本政府は新型コロナウイルス感染症への対策は危機管理上重大な課題であるとの認識の下、国民の生命を守るため、これまで水際での対策、蔓延防止医療の提供等について国を挙げて講じているところです。

そんな国難なときに（一社）栃木県幼稚園連合会が動き出そうとした矢先に総理大臣より緊急事態宣言が発令されました。それを受けて都道府県知事より緊急事態処置として県立学校（私立含む）の「休校要請」併せて幼稚園・認定こども園（一号こども）にも「休園要請」しかし当局より預かり保育希望者には保育を提供して欲しいと「開園要請」幼保連携型認定こども園（二号・三号こども）は「自粛要請」が出され、園はそれぞれの家庭に自粛のお願いをしております。これらは「三つの密」を避けてクラスター感染を封じ込め爆発的な感染拡大の発生を防止するための処置とされています。

一方、経済的なダメージも計り知れないものがあるのではないでしょうか。不要不急の外出をひかえるようにと国民すべてに要請されております。個人商店にとっては死活問題であり、これが長引けば経済不況にもなりかねない状態に陥っております。

今後も新型コロナウイルス感染予防に皆様と情報を共有し全力で対応してまいります。ご指導ご鞭撻のほど重ねてお願いします。

私は、こんな人

本年古希になる。

栃幼連の役員となって十六年目を迎えた。振り返ると激動の平成時代を一気に駆け抜けてきたような気がする。何と言っても時の流れの速さには驚きと焦りと不安しかない。だが、その間しっかり学んだことがある。それは「辛抱すること」これは自分の人生の宝物となった。「自分の軽いひとことが他人の心を重く深く傷つけることがある。」お互い相手をリスペクトしよう。

いつの間にか気がつけば

こども政策課長就任にあたって

こども政策課長　田中島　浩子

一般社団法人栃木県幼稚園連合会及び会員の皆様におかれましては、本県の幼児教育の振興や充実のため、格別の御尽力と御協力をいただき、厚く御礼申し上げます。また、令和二年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、かつてない慌ただしさの中でスタートすることとなりましたが、皆様には幼児教育・保育という三密を避けることが難しい環境の中で、様々な工夫により感染症拡大防止に御尽力いただいておりますことに、重ねて御礼を申し上げます。

さて、我が国では、未婚化や晩婚化などによる急速な少子化の進行、核家族化や地域社会における人間関係の希薄化などによる家庭や地域の子どもを育てる力の低下、子育て家庭の孤立化、児童虐待の増加など、子ども・子育てを取り巻く様々な問題が生じております。

このような中、県では本年三月に令和二年度から令和六年度までの五か年を計画期間とする「とちぎ子ども・子育て支援プラン（二期計画）」

を策定しました。このプランに沿って結婚、妊娠、出産及び子育ての各段階に応じて切れ目なく支援する取組を更に進め、県民が安心して子どもを生み、育てることができ、子どもが健やかに成長することができる地域社会の実現を目指して参ります。この目標を達成するためには、地域における子育て支援の中核的役割を担っていただいている皆様の御協力が不可欠であります。何卒お力添えのほどよろしくお願いいたします。

子どもは、一人ひとりがかけがえのない存在であり、社会の宝です。子どもたちがすくすくと育つことは、保護者の方々をはじめ、子ども・子育てに携わる全ての人々の共通の願いです。次世代を担う子どもたちが元気な声を響かせ、心豊かに成長できるよう、幼児教育や子育て支援の充実に引き続き取り組んで参りますので、栃木県幼稚園連合会や幼稚園・認定こども園の皆様の更なる御理解と御協力をお願いいたします。

県におきましては、新型コロナウイルス感染症の終息に向け、国や市町、関係機関等と連携し、全庁を挙げて、各種対策に万全を期して参りますので、引き続き御協力のほどよろしくお願いいたします。

私は、こんな人

里山歩きや写真撮影が趣味で、身近な花や鳥、風景などちょっとした被写体を見つけては写真に収めています。最近は七か月になる孫の成長が最大の楽しみであり癒やしです。

さらなる連携を目指して

幼児教育センター長　堀江　賢

この度、幼児教育センター長を拝命いたしました堀江賢（ほりえさとし）と申します。四年前にも幼児教育センター指導主事として皆様とお仕事をさせていただいておりました。改めてよろしくお願いいたします。

栃木県幼稚園連合会の皆様方には、日頃より幼児教育センターの各種事業につきまして御理解・御協力をいただき、ありがとうございます。また、昨年度まで幼児教育専門員として御推薦いただいた黒羽幼稚園の栗田英子園長には、研修の講師や幼稚園連合会との連携に御尽力いただきました。そして、今年度から新たに幼児教育指導員として御推薦いただきました愛泉幼稚園の小倉庸寛園長には豊富な経験を基に新たな視点でセンター運営に寄与してくださるものと期待しております。重ねて感謝申し上げます。

さて、私は昨年度まで小学校に勤務しておりました。四月になるとたくさんの新入生が入学して参ります。最近のランドセルは大きく、新入生はなおさら小さく見えてしまい、かつては必要以上の指導をしがちでした。しかし、三月までそれぞれの幼稚園で様々な経験をして自信と意欲にあふれた立派な最上級生だった新入生です。小学校でもその理解が進み、幼稚園で育まれた力を大切にしながら、０（ゼロ）からのスタートではないという認識で指導を行うようになってきています。

本県におきましては、全国に先駆けて「幼児教育センター」を開設し、今年で十九年目になります。幼児教育行政の中核的施設として、幼児期（幼・こ・保）から児童期（小）への円滑な接続と幼児期にふさわしい教育環境を整えるため、各種事業を展開してまいりました。少しずつですが着実に、幼稚園と小学校の相互理解が進んできていると感じます。

約四年ぶりに幼児教育センターに戻って参りましたが、この間に各市町において教育委員会と保育主管課との連携もかなり進んだと感じています。今般の幼稚園教育要領等の改訂に伴い、幼児期において育みたい資質・能力が明確になり、小学校教育との円滑な接続等が基本方針として掲げられました。幼児教育センターにおいては、今年度から幼児教育と小学校教育のカリキュラム接続を重点課題として取り組んでまいります。その推進にあたり、「研修」や「調査研究」の内容とも関連を図りながら事業を展開してまいります。これからも信頼されるセンターとして、幼児期の教育の充実を目指して努力してまいりたいと思いますので、今後とも御支援・御協力をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

私は、こんな人

アウトドアが大好きで、冬はスキー、夏は海、普段の休日も登山や自転車、ウォーキングなど、時間を見つけては、アクティブに過ごしています。（家族に許される範囲で！）

令和2年度 定時総会（書面決議）

期日：令和二年五月二十一日（木）

令和二年五月二十一日（木）に予定されていた、令和二年度定時総会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止となった。例年であれば、来賓の方々を迎え、あいさつ等を頂戴し、参加された方々から各議案についての審議を受けることとなる。しかし今年度は、三密を避けるために開催叫わず書面での決議となった。

コロナウイルスは社会や日常への影響のみならず、こういった様々な事柄に対しても影を落としている。最近では、ＺＯＯＭに代表されるＷＥＢ会議等の利用も増えてきてはいるが、いざ導入となるとおいそれと事は進まない。なかなか難しいものである。

さて、この様な形での定時総会となってしまったが、各議案について先生方の同意をいただき、全園から同意書が提出され無事に可決承認となった。このコロナ禍が終息を迎え、次年度は例年通りの定時総会が行えることを願いつつ、先生方のご協力に感謝申し上げたい。

副理事長挨拶

栃幼連副理事長　船田　弘和

新制度がなんとか浸透しつつあった昨年、突如として襲来した台風の猛威と、正体が掴めなかった無償化の政策と両方に奔走しておりました。年度末になって、世界中が未知のウイルスの脅威に怯え、幼稚園・こども園からは一時園児の姿が消え、日常を失った園では、今まで大切にしてきた、子ども同士が群れ関わり合う（密集）やアタッチメント（密着）と、感染防止対策のバランスを考えながらどう保育の現場で実践して行くべきなのか悩んでおります。

こんな時代だからこそ石嶋理事長に再委任いただけたことは、栃幼連にとって最善の利益であると確信しております。私の担当委員会も総務・経営及び振興と全て変わりましたが、馬場副理事長、今井副理事長、池田事務局長と結成した「花（初老）の五十五歳組」のメンバー及び各委員長とともに、栃幼連加盟園の園児、職員と各園の発展の為の理事長方針をサポートすることで、完全燃焼させていただきます。

皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

私は、こんな人

自分としては、周りを気遣い人の心に向き合いながら生きてるつもりなのですが、家族からの評価は得られておりません。園児と檀家のおばあちゃんからの評価に救われてなんとか生きています。

栃幼連副理事長　馬場　章信

図らずも引き続き副理事長を務めさせていただくことになりました。今期は、認定こども園委員会、青年部委員会、そして振興委員会を担当させていただきます。

ものすごい勢いで進む少子化の流れの中で、コロナ禍はどんな影響を及ぼすのでしょうか。課題は増すばかりです。次代を担う若い力に課題解決の先頭に立ってもらいながら、すべての設置者・園長先生の力を結集し、栃幼連の組織力をもって対処していければと願っています。あらためまして、どうぞよろしくお願いいたします。

私は、こんな人

一年前にも書きましたが、相変わらず整理整頓が苦手で、さらに忘れっぽさが加わり、あらゆるものがとっちらかっています。綱渡りで人生を送っている感じです。

時間があると、ネットやDVDで映画等を楽しんでいます。

栃幼連副理事長　今井　政範

今年度から、副理事長としてお仕事をさせていただくことになりました。これまでは、宇都宮地区を中心に活動していましたが、より広い視野を持って乳幼児教育・幼保小連携等を考えていきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。「子育て四訓」と言われるものがあります。全ての方が、この言葉を心に留めて子育てに携わっていただけるよう、微力ながら尽力していきます。

一、乳児はしっかり肌を離すな
一、幼児は肌を離せ　手を離すな
一、少年は手を離せ　目を離すな
一、青年は目を離せ　心を離すな

私は、こんな人

学生時代は、剣道と合気道に励み、社会人になって、自転車やウインドサーフィン等に夢中になりました。家族旅行が好きで、最近では週末登山にいそしんでいます。遊んでばっかりの様に聞こえますが、もちろん平日には、一生懸命、幼稚園で仕事をしています。と、思います。

各委員長挨拶

総務委員長　山中　章弘

この度、総務委員長を仰せつかりました山中章弘（やまなかあきひろ）です。微力ではございますが、円滑な委員会を努めてまいります。前任の富川委員長の様に、目配り、気配り、心配りの気持ちを引き継ぎ、副委員長の細島洋明先生をはじめ、総務委員の皆様とやりがいのある環境を作り、委員会で活発な議論ができればと思っております。委員会運営にあたり、皆様のご協力は欠かせません。事務局、各委員会との連携を強化して、より多くの加盟園の皆様の声をお聞きしながら、楽しく、有意義な委員会作りに励んでいきたいと思っておりますので、今後ともご協力の程宜しくお願い致します。

振興委員長　富川　将

この度、振興委員長を仰せつかりました。微力ではありますが精一杯任に当たりたいと思います。新型コロナ（COVID-19）への対応等、今までに経験したことの無い社会情勢の中ではありますが、石嶋理事長の元、各副理事のご指導を頂きながら、副委員長の前田浩輔先生をはじめ、所属の各委員、専門委員の先生方と一丸となって力を合わせて、知恵を出し合いながら会務の円滑な執行を目指して参ります。

政策や補助金といった面からも、質の高い栃木県の幼児教育・保育を維持し、更なる質の向上を目指して参りますが、そのためには皆様のご理解ご協力がどうしても必要です。今後とも、旧に倍して一層のお力添えをどうぞよろしくお願い申し上げます。

私は、こんな人

面白いこと、楽しいこと、そして美味しいものが大好きで、宮沢賢治の雨ニモマケズの中で謳われている様な『サウイフモノ』に私もなりたいと思っている人です。

教育研究委員長　小倉　庸寛

僭越ながら引き続き教育研究委員長を拝命いたしました。勢いよく再スタートを切りたいところでしたが、コロナ禍により計画が延期や中止となり、皆様に大変なご心配とご迷惑をお掛けすることになったことをまずお詫びいたします。何といっても栃木県幼稚園教育研究大会が中止となり、処遇改善加算等加算や免許状更新講習に対応する研修については、代案を研究委員全員で思案中です。今期も山﨑先生（釜井台幼稚園）に副委員長をお願いし、優秀な教育研究委員の皆さんと力を合わせて、この難局を乗り越えていく所存です。会員の皆様、研修へ参加してくださる皆様のご理解、ご協力を頂き運営していきたいと思います。今年度もどうぞ宜しくお願い致します。

私は、こんな人

じっくり事にあたることを心掛けていますが、なかなか上手くいきません。せっかちで、頭より体が先に動くタイプで、失敗しないと理解しないタチであることは間違いありません。今まではそれでも何とか勢いで乗り切ってきましたが…もうそういう歳でもなくなりました。頭と身体の変化を感じ、ランニングからウォーキングに切り替えました。ゆっくり体に染み込ませたいと思う今日この頃です。

経営研究委員長　栗原　森人

この度、経営研究委員長に就任いたしました。今まで、地区の会長として理事会に参加させていただき、経営研究委員は三年目ですが、まだまま駆け出しです。皆様のご意見をいただきながら一緒に幼稚園経営について研究させていただこうと考えております。

現代は、少子高齢化や産業構造の変化など大きな変化の中にあります。それに加えて、コロナウイルスの世界的な流行により、「新しい生活様式」などという言葉まで出てきています。このような中で子どもたちの将来の幸福、そして社会全体の幸福のために、子どもたちに何をどのように伝えていけば良いのか、そのために幼稚園はどうあるべきか。皆さんとともに考えて行きたいと思っております。

私は、こんな人

私は音楽が大好きです。カラオケで歌うのも好きですが、いろいろな楽器が好きで、触ってみています。ピアノ、ドラム、チェロ、ギター、パイプオルガンなど、上手くはないけれど素人なりに楽しんでいます。

認定こども園委員長　黒田　光泰

長く経営研究委員会に籍を置いておりましたが、今般認定こども園委員長を拝命いたし、心機一転この職責を全うしてまいる所存です。県内においては多くの園が認定こども園に移行しています。各園の運営については、公定価格において地域や規模、職員の配置等において大きな格差が生じています。安定した園の運営が行えるために何が必要で、何をなすべきかを考え、国や地域（市町）の政策状況を鑑みながら安定経営の方策を図り、更には認定こども園の存在意義についても考察し、子どもたちの豊かで健やかな成長の一助となる為の研修を持ちたいと思います。幸いにも副委員長の伊沢先生はじめ、優れた善知識の委員会メンバーが集っておりますので、任期中「任に當たって、他に譲りがたし」の覚悟で精進いたします。

私は、こんな人

学生時代、カンボジア難民救済のボランティア活動を行い、現在もカンボジアでの小学校や図書館の建設、絵本の寄付やタイのスラムの生活や教育の支援活動を行っています。園児や保護者にも世界には十分な教育が受けられず困窮している人のいることを伝え協賛を仰いでいます。

広報委員長　堀　昌道

この度広報委員長を拝命しました。ずっと昔に青年部委員長、前回認定こども園委員長、そして今回広報ということで、委員長職三回目になります。毎回右も左も解らないのに受けてしまうのは、楽天的に物事を考えるからかもしれません。広報委員会にはベテランの先生もおられることと思いますので、どのように紙面づくりをしてきたかをよく聞いて、委員会のメンバーと協力して栃幼時報等の作成に取り組んでいけたらと考えています。

またこの記事をご覧になっている皆様に原稿執筆の依頼をさせていただくことがあるかもしれません。その折にはみんなで作る栃幼時報と受け止めていただいて、快くご協力いただけたら幸いに存じます。

私は、こんな人

前回スイミングに挑戦と書きましたが、下手は変わらず、クロール、背泳ぎ、平泳ぎは何とか五十メートルくらい泳げるようになりました。しかしコロナに邪魔されてバタフライは何時になるやら不明になりました。

青年部委員長　青柳　貴也

青年部委員長の任を引継ぎ務めるにあたり、任期の二年間、栃木県幼稚園連合会の為に精一杯努力して参ります。青年部委員会は、各地区の幹事の先生を中心に、研修や視察の運営や新規採用宿泊研修の講師、それに伴う会議を行っております。今回の任期では、各地区の先生方が集まっているので地区の問題や、それぞれの持つ悩みを気軽に相談しあえる明るい雰囲気を副委員長の石嶋先生、栗原先生のお力をお借りしながらつくっていきたいと考えております。

私は、こんな人

子どものころは、外で遊んだり、ゲームをしたり、お菓子や甘いものが好きな子どもでした。最近は、体を動かすことも減り、学童で流行っているゲームを共通の話題が欲しくて始めても動かし方がわからず途中で諦めたり、お菓子や甘いものを体がうけつけなくなってしまいました。変わらず続けられていることは、週刊少年ジャンプを毎週月曜日に読むことです。

令和2・3年度　栃幼連役員・委員会構成

令和2年5月21日現在

理事長	石嶋　勇（認定すずめこども園）		
副理事長	船田　弘和（認定こども園おおみや幼児教育センター）	馬場　章信（認定こども園たから幼稚園）	今井　政範（認定こども園さくらが丘）
	【総務･振興･経営研究 委員会担当】	【振興･認定こども園･青年部 委員会担当】	【振興･教育研究･広報 委員会担当】

●総務委員会

委員長	山中　章弘（認定こども園小山幼稚園）	専門委員	稲川　康代（平出幼稚園）
副委員長	細島　洋明（認定こども園真岡ふたば幼稚園いちごの杜保育園）	〃	石川健太郎（認定こども園アルス南幼稚園）
委員	寺内　宏子（作新学院幼稚園）	〃	平野　正大（認定こども園栗の実）
〃	古本　裕一（やしお幼稚園）	〃	饗庭　百子（認定こども園氏家幼稚園）
〃	遠藤　英昌（認定こども園花園幼稚園）	〃	栗田　典昭（認定こども園黒羽幼稚園）
〃	栗原　賢明（認定こども園くにや幼稚園）		

●振興委員会

委員長	富川　　将（認定間々田こども園）	専門委員	金子　礎泰（ひじり認定こども園）
副委員長	前田　浩輔（認定こども園友愛幼稚園）	〃	上野　和彦（にのみや認定こども園）
委員	山越　忍隆（認定こども園足利幼稚園）	〃	酒井　龍宏（認定こども園吹上幼稚園）
〃	瀧口　琢也（認定こども園明星幼稚園）	〃	吉水　義浩（認定こども園烏山みどり幼稚園）
〃	香川　玲子（認定こども園鹿沼ひかり幼稚園）	〃	瀧田　　真（ふたば幼稚園）
〃	円山　仁三（認定こども園長畑幼稚園）		

●教育研究委員会

委員長	小倉　庸寛（認定こども園愛泉幼稚園）	委員	小林　研介（認定こども園呑竜幼稚園）	専門委員	稲川　知美（宇都宮大学共同教育学部附属幼稚園）	花岡　宏樹（認定こども園梅ヶ原幼稚園）
副委員長	山﨑　英明（認定こども園釜井台幼稚園）	〃	岡本　純世（認定こども園すみれ幼稚園）	〃	佐々木桐子（萌丘幼稚園認定こども園）	齋藤久美子（認定こども園鹿沼ひかり幼稚園）
委員	石戸奈緒美（みふみ認定こども園）	〃	栗田　英子（認定こども園黒羽幼稚園）	〃	鈴木　典子（山辺幼稚園）	大嶋　　裕（認定こども園今市中央幼稚園）
				〃	大島絵理子（認定こども園呑竜幼稚園）	岡本　純世（認定こども園すみれ幼稚園）
				〃	大久保智子（認定こども園やすづか幼稚園）	栗田　英子（認定こども園黒羽幼稚園）

●経営研究委員会

委員長	栗原　森人（聖母幼稚園）	専門委員	木嶋香保利（御幸幼稚園）
副委員長	関口　修司（認定こども園ひらかわ幼稚園）	〃	栗子　佳子（認定こども園矢場川幼稚園）
委員	若色美江子（上河内幼稚園）	〃	小野瀬泰弘（楠エンゼル幼稚園）
〃	佐藤　健太（認定こども園七井幼稚園）	〃	綱川　桂子（認定こども園烏山聖マリア幼稚園）
〃	岩﨑　哲郎（足利くるみ幼稚園）		
〃	齋藤　達成（認定あけぼのこども園）		

●認定こども園委員会

委員長	黒田　光泰（認定こども園ひかり幼稚園）	専門委員	薄久保尚史（陽の丘幼稚園）
副委員長	伊澤　信恭（認定こども園静林幼稚園）	〃	吉羽　俊明（認定こども園高ノ台幼稚園）
委員	荒川　智篤（認定こども園あつみ幼稚園）	〃	三田　啓介（認定こども園足利めぐみ幼稚園）
		〃	松下　匡崇（認定こども園栃木幼稚園）
		〃	内木　大輔（認定こども園第二薬師寺幼稚園）
		〃	松島　則子（認定こども園清滝幼稚園）
		〃	小林　克良（やいたこども園）

●広報委員会

委員長	堀　　昌道（認定こども園岩舟幼稚園）	専門委員	望月　麻生（足利みどり幼稚園）
副委員長	田﨑　容子（認定こども園平出むつみ幼稚園）	〃	酒井　康晴（愛育幼稚園）
委員	西田　知生（認定こども園にしだ幼稚園）	〃	小森谷博一（認定こども園大平みなみ幼稚園）
〃	桑門　秀光（今市幼稚園）	〃	大山　裕孝（認定こども園せいほう幼稚園）
〃	齋藤　君世（高根沢第二幼稚園）	〃	橋本　慎平（認定こども園鹿沼みどり幼稚園）
		〃	月江正太郎（虹ヶ丘認定こども園）

●青年部委員会

委員長	青柳　貴也（晃望台幼稚園）	地区幹事	石戸奈緒美（みふみ認定こども園）	栗原　賢臣（認定こども園くにや幼稚園）	橋本　慎平（認定こども園鹿沼みどり幼稚園）
副委員長	栗原　賢臣（認定こども園くにや幼稚園）	〃	伊東幸次郎（認定こども園伊東文化幼稚園）	小森谷博一（認定こども園大平みなみ幼稚園）	石嶋　　純（認定こども園きつれ川幼稚園）
〃	石嶋　　純（認定こども園きつれ川幼稚園）	〃	川﨑　寛章（真岡杉の子幼稚園）	近藤　史人（認定こども園みのり幼稚園）	栗田　典昭（認定こども園黒羽幼稚園）
		〃	新田　正法（認定こども園足利いずみ幼稚園）	平野　正大（認定こども園栗の実）	

栃木県私立幼稚園振興連盟 令和二年度総会

期日　令和二年五月二十一日
※開催見送り

栃木県幼稚園連合会総会と同じく、今般の新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、今年度は開催を見送り文書による議決を行った。加入者へは総会前に総会資料と回答書が送られた。その回答書に賛否の意思を記入し、五月二十九日（金）を締め切りに加入者の意思表示が取り纏められた。

【議案】
①令和元年度事業報告並びに収支決算書の承認について
②令和二年度事業計画（案）並びに収支予算（案）の承認について
③自由民主党栃木県私立幼稚園支部令和元年度収支決算書並びに令和二年度収支予算（案）の承認について
④役員改選について
以上、四議案はすべて原案通りに可決承認された。

教員養成機関・栃幼連懇談会

期日：令和二年五月二十七日（水）
午前十時三十分
会場：ニューみくら　大会議室

●出席養成校（順不同）
作新学院大学女子短期大学・白鷗大学・國學院栃木短期大學・足利短期大学・宇都宮共和大学・国際看護介護保育専門学校・宇都宮ビジネス電子専門学校

●主な懇談内容
県内の養成校七校（十三名）と栃幼連（正副理事長、常任理事十名）との懇談会が例年通りに開催され、船田副理事長の進行のもと主に次のことが協議された。

一、栃幼連加盟園による「合同就職説明会に」【七月五日（日）】の実施について
総務山中委員長より、コロナ感染症対策として人が大勢集まる密集は避けなければならない、苦渋の決断ではあるが、本年度は中止し、それに代わるものとして今年度に限り、六月中には情報誌を各養成校に配布するとの報告がされ、養成校の了承を得た。

二、栃幼連加盟園による「合同就職説明会」の広告（協賛）について
石嶋理事長より、日曜日開催については経費もかかるので協賛金のお願いをしていたが、合同就職説明会中止のため本年度に限り広告代不要。情報誌には養成校の情報は記載予定とし、養成校の理解を得る。

三、教員養成校の進路状況実態調査票について
昨年養成校八校の合計卒業者数五百三十一名、そのうち就職先、幼稚園六十二名、認定こども園百二十六名、保育所（園）二百三十三名、その他百十名。

四、教育実習について
各校とも本年度はコロナ感染症対策のため、延期をして実習の要請をしている。検温や行動記録をとって行かせているので、受け入れに協力してほしいとの発言多数。

五、幼稚園・認定こども園等の就職に関する諸問題について
今年の採用活動開始は例年に基づき、七月五日とすること両者合意。但し、実習延期が多いので、急がないでほしいとの意見や自主実習受け入れの協力依頼があった。

この度、こども政策課より、貴重なマスクを二，五〇〇枚贈呈いただきました。
ご配慮に心より御礼申し上げます。

幼児教育センターだより

今年度の研修の一部が中止になりました

新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を鑑み、今年度実施を予定しておりました研修の一部を中止とさせていただくことになりました。今後実施する予定の、幼児教育センター主催の研修は次のとおりです。

○新規採用幼稚園教諭等研修（集合研修）（12／25）
○幼稚園等教職5年目研修
　第2日（10／20）
　第3日（2／16）
○幼児期の特別支援教育研修
　第2日（11／17）
○合同研修
　（9／7　9／8　9／29　10／1）
○トップセミナー（10／29）
○スキルアップセミナーⅡ（10／13）
○スタートカリキュラム講座（2／5）

※新規採用幼稚園教諭等研修の集合研修につきまして、12／25の他、代替の研修を実施する予定です。期日は決定後に連絡いたします。また、栃幼連主催の宿泊研修は中止となります。なお、地区研修につきましては、現在検討中です。
※中堅幼稚園教諭等資質向上研修につきまして、今年度受講予定者は次年度に受講していただきますようお願いいたします。

地区別に実施します合同研修「幼小」は、小学校の先生方と接続期の教育の在り方について語りあえる貴重な機会です。また、幼児期の具体的な子どもの姿を小学校の先生方に理解していただくためには、幼児期の教育に携わる先生方の参加が必要です。幼児期の子どもの学びを小学校へと繋いでいくために、お力をお貸しいただければと思います。

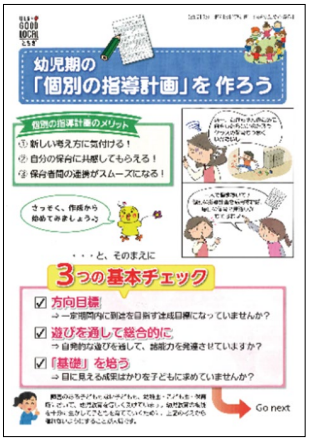
幼児期の安全教育に関するリーフレットを送付しました

令和元年度の幼児教育調査研究で、園における安全に関する指導資料としてリーフレットを作成し、各園に送付させていただきました。

これは、幼児期にふさわしい生活を通して、自ら安全に気を付けて行動する子どもを育むために、「安全についての構え」「交通安全の習慣」「緊急時の適切な行動」という三つの視点から、幼児期の安全教育の在り方についてまとめたものです。

幼稚園教育要領解説には「安全を気にするあまり過保護や過干渉になってしまえば、かえって幼児に危険を避ける能力が育たず、けがが多くなることがある」と記されていますが、特に「安全についての構え」については、三歳児～五歳児のそれぞれの時期に大切にしたい経験や、関連する具体的な子ども姿の例を取り上げながら、指導のポイントをまとめました。ぜひ改めて手に取っていただき、日頃の保育の中で御活用いただければと思います。

幼児期の「個別の指導計画」作成のための資料を送付しました

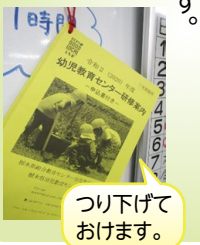


こちらの資料は、幼児期の「個別の指導計画」について、県の参考様式に基づき、基本的な作成の流れを示したものです。具体的な事例をもとに、作成の手順を分かりやすくまとめました。幼児教育センターのウェブサイトからもダウンロードできますので、ぜひ御活用ください。

研修の申込みはこちらから

研修の申込みは、こちらの研修案内（三月送付）を御活用ください。研修内容とＦＡＸ申込書が一体となっており、そのまま送信できます。

今年度も、たくさんの先生方の参加をお待ちしております。



センター職員紹介

新メンバー

●センター長　堀江　賢
鹿沼市立鹿沼東小学校より
●指導主事　天川　有紀
芳賀町立芳賀南小学校より
●幼児教育指導員　小倉　庸寛
現 認定こども園愛泉幼稚園長

マスコットキャラクター「ピヨちゃん」

●神長顧問
●富川指導主事
●天川指導主事
●髙根沢指導主事
●小倉幼児教育指導員
●前原副主幹
●堀江センター長
●栃木幼児教育指導員

こども政策課だより

四月の定期異動により、田中島こども政策課長、寺内課長補佐（総括）のほか、子ども・子育て支援班では和氣課長補佐が配属となりました。

引き続き幼児教育や子育て支援の充実に努めて参りますので、本年度もよろしくお願いします。

- 髙岩主任
- 石下主任
- 神地主査
- 菅谷主任
- 北山主任
- 塚田主事
- 谷川係長
- 林子ども・子育て支援班長
- 田中島課長
- 寺内課長補佐（総括）
- 和氣課長補佐

組織改編について

令和二年度の県の組織改編により、新たに保健福祉部内に指導監査課が設置されました。

今年度以降の幼稚園・認定こども園・保育所の指導監査は指導監査課が実施することとなりますので、御協力のほどよろしくお願いします。

学校基礎調査について

例年、私学助成を選択する幼稚園に対し教職員等の確認のためヒアリングを実施しているところですが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響を勘案し、書面による確認に変更いたします。

詳細については、対象の幼稚園に通知文を送付しますので御確認ください。

各種届出書類について

- 学校法人の令和元年度決算書及び令和二年度収支予算書の提出期限は六月三〇日です。
- 令和元年度決算に伴う資産総額の変更登記を寄附行為で定める期日までに行い、登記済届をこども政策課まで提出してください。

令和二年 七月～九月までの事業予定

7月5日	就職説明会→中止
7月9日	栃幼PTA総会→中止
7月13日	資質向上研修→2月15日に変更
7月21日	※スキルアップセミナーⅠ→中止
7月28日	新採研（集合研修）→中止
7月30日	※中堅幼稚園教諭等資質向上研修→中止
8月5日～7日	新採研（宿泊研修）→中止
8月19日～21日	第67回県教研大会→中止
8月19日	バス安全運転講習会→中止
8月20日	免許状更新講習→別日に変更
8月25日	※中堅幼稚園教諭等資質向上研修→中止
9月3日	保育セオリー講座→11月10日に変更
9月7日	設置者・園長研修会
9月7日～8日	※合同研修（幼・小）→中止
9月16日	※教育課程研究集会→中止
9月18日	0・1・2歳児研修→中止
9月29日	※合同研修（幼・小）→中止
9月30日	保育テクニカル講座
	※は幼児教育センター事業

訃報

日光市　輪王寺附属日光幼稚園
園長　荻原　貞正　先生
令和二年三月二十八日　逝去

宇都宮市　陽の丘幼稚園
元理事長　薄久保　友司　先生
令和二年四月二十九日　逝去

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

事務局だより

新職員紹介

四月一日付にて当事務局職員として、渡辺瑠菜（24）さんが採用されました。何かと不手際な点もあると思いますがよろしくご指導くださいますようお願い致します。

編集後記

令和二年の春は、新型コロナウィルスに関する情報収集と予防対策の検討を重ねる日々となりましたが、子どもたちを迎えるために試行錯誤してきた先生方の努力は、子どもたちや保護者に伝わっていたはずです。

新たな生活様式の中で園生活が始まり、私たちはこれから、新たな感染症とともに生きながら幼児期の子どもたちの育ちを見守っていく訳ですが、ウェブ上の交流やICT関連の取り組みがますます発展する中で、より様々な視点で幼児教育における課題を見出していく必要があると感じています。

例えば、感染症が再流行してステイホームが求められた時、子どもたちの生活リズムの乱れや体力の低下に対して、どのように働きかけてあげられるかを考えたり、幼児の保健衛生対策をいかに実施していくのかを検討したりと、子どもの心身の健康教育の面だけでも、細やかな対応が求められると感じます。

幼児期の健やかな心とからだを育むために、今一度、子どもの三間（サンマ）を見直し、時間、空間、仲間におけるコミュニケーションのあり方を考えていきたいと感じています。

今年度は、異例の対策や変更が重なっておりますが、皆様とともに、一つひとつの課題を乗り越えていきながら、次号の発行につなげたいと思います。

（高根沢第二幼稚園　齋藤　君世）